2018　第２号

# 韮高 SSH だより

2018.7.20　発行

## SSH3 年生グループ課題研究成果発表会が行われました！

７月８日（日）に「SSH3 年生グループ課題研究成果発表会」が行われました。この発表会は３年生がこれまでに行ってきた課題研究の集大成と言える発表会であり、３年生にとって最後の発表の場でもありました。３年間にわたり行ってきた課題研究の成果を公開し、意見交換し合うことで各自の考察や解釈の客観性を検証するとともに、相互に研鑽し合うことで新しいものの見方を養う契機となりました。研究は 13 研究、延べ 44 名で行われ、それぞれの研究は物理、生物、化学、地学などさまざまな分野に分かれていました。発表の前半は代表生徒によるパワーポイントを使った口頭発表、後半は３年生全員によるポスターセッションが行われました。どの研究もレベルが高く発表までの努力や苦労が伝わってきて、３年生の頑張りを感じることができました。また、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の主任調査委員・宮崎仁志先生からも、自ら課題を発見し問題を解決する力や自分の言葉で伝えていくことの大切さについてご助言いただきました。発表した研究は以下の通りです。

| No. | グループ課題研究名 | No. | グループ課題研究名 |
|---|---|---|---|
| 1 | ゼーベック効果の研究 | 8 | ボルボックスの生態研究 |
| 2 | 水中シャボン玉の研究 | 9 | 辛み成分とカビの減少 |
| 3 | なぜ濃硫酸だと電流が流れにくいのか | １０ | 音が発酵に与える影響 |
| 4 | 銀イオンに殺菌効果はあるのか | １１ | 砂層を浸透した水のキレート滴定を用いた鉱物の風化具合 |
| 5 | 甘利山におけるタンポポの垂直分布 | １２ | 甘利山土壌環境調査～土壌の酸性化はレンゲツツジの生育を阻害する～ |
| 6 | コンパニオンプランツの効果について | １３ | 環境 DNA を用いた生物外来種の生育調査（その３） |
| 7 | ムペンバ効果について～高温の水は低温の水より速く凍る～ | | |

発表している３年生に、１、２年生が分からないところを積極的に質問したり、先生方が意見を述べていたりと非常に活発な発表会となりました。１、２年生は今回の発表を参考にして、自分達が３年生になったときに先輩方のような発表ができるよう頑張っていくことと思います。

＊＊＊以下、感想の抜粋です＊＊＊

◆ 3年生の研究発表は、これから自分たちが課題研究をやっていく上での指針となりました。今日先輩達から学んだことをしっかりと活かしていきたいです。大変いい経験になりました。（1年6組　菊島悠一郎）

◆ 先輩達の発表を聞いて、これからの自分たちの研究でどのように道筋を立てて研究を進めていけばいいかを学ぶことができました。（1年6組　藤森里珠）

◆ 先輩方のいろいろな分野のポスター発表を見させていただきました。私も昨年度から研究を進めていく中でうまくいかないことなども多かったのですが、先輩達の発表を聞いてこれからどうしていけばいいか、研究の進め方、発表の仕方など参考になりました。（2年6組　篠𠮟　友里愛）

◆ 3年生の発表は来年度の自分たちの発表に向けて大変参考になりました。自分たちも誰もが納得できるような発表をしたいと思います。（2年5組　中谷駿佑）

◆ 3年間SSHの活動を続けてきて、改善点なども分かりこの発表をやり遂げることができました。これからの1，2年生の活動に役立ってくれたら嬉しいです。（3年6組　高相茉莉有）

◆ どのポスター発表もクオリティが高く研究の成果がよく伝わっていたと思います。発表しているとき、後輩達の真剣な姿勢が見え、今後の韮高SSHの未来は明るいと思いました。研究に終わりはないので、今後も研究と共に生きていきたいです。（3年5組　名取　宗一郎）

（文責　2年6組　内藤聖晴　中込陸　浅川世奈　奥﨑光　加藤里菜）